

---

# うどん

やまだ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

うどん

### 【コード】

N0946Q

### 【作者名】

やまだ

### 【あらすじ】

おっさんの哀愁、ぼっちめし

坂本さんは昼休みにはいつつもうどんを食べていた。

僕は食堂にいくとき、人ごみの中、目を凝らして坂本さんを探す。

端っこのテーブルのさらに隅の場所に小さい体の坂本さんがいる。

坂本さんの食事の仕方はとても面白い。例えばうどんを食べるときは麺を一本チュルとすする。ただその繰り返しだ。さかもとさんは口の中で小麦粉を練って伸ばしたものをペースト上にする作業を真摯にこなしている。麺が伸びようと汁が冷めようと構いなしにゆっくりと口を動かしている。

僕はその風景をじっと見ていた。なんだか坂本さんの周りだけ神聖な空間。そんなかんじだ。坂本さんは僕が見ていることも知らずにうどんの麺を見つめている。

昼休みの終了のチャイムが鳴る。

食堂には坂本さんの向かいにいる僕と、端っこの坂本さんと、中途半端な位置にいるケータイをもった黒髪の新入社員がいた。

僕は中途半端な位置に向かった。黒髪に話しかける。

「あの隅っこにいる変なおっさんさあ。」僕はそう小声で言った。黒髪はすこし笑って僕に話しかけた。

「あーあいつっすか、なんかオカシイっすよね。うどん滅茶苦茶遅く食ってるし。何時間食堂にいるつもりだよみたいな。」

「あ、動き出した動き出した。うわーうどんほとんど残ってるのに流しに捨ててんじゃんもったいないー。」僕は坂本さんが歩きだしたのを見て言った。黒髪もそつちをみた。

「少ししか食べれないのって、あれじゃないんすか？歯が悪いとかなんか胃の病気とか。」

「は？それなら最初っからうどんなんか食堂で注文しねーでおとなしくスーパードツカで買ったおかゆでもくうだろ。」

つまりさ。僕は人差し指で頭を指さしてくるくと回した。黒髪は

うわーやべーきめーとニヤニヤしながら僕と同じ動作を繰り返した。なんで僕はこんなことをしているんだろう。僕はただ、坂本さんにうどんはおいしいですか？とか、なんでそんなにゆっくり食べているんですか？って聞きたいだけなのに。あなたの食べ方見て好きですよって言いたいのに。

昼休みが終了するチャイムがもう一度なった。

坂本さんはもう食堂にはいなかった。やべつと黒髪がダッシュして食堂の出口に向かった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0946q/>

---

うどん

2011年10月10日00時28分発行